

# 死因究明等に関する本県の現状と課題

資料 2

	項 目	現状と課題
1	検案医師、歯科医師の確保及び人材育成	県内の検案の嘱託医師は17名、高齢化が進み、次の世代の医師の確保が課題
2	現病歴情報、処方薬情報の早期把握	現病歴・既往歴は、死因を特定するうえで重要な情報であり、早期の把握が必要
3	死亡時画像診断の実施率の向上	死亡時画像診断の実施率（県警）は、過去10年で2017年の33％が最高値で、これ以外の年は約30％前後で推移。より正確な死因判断のため実施率の向上が必要
4	身元確認の円滑化	通院（歯科）履歴の判明により、死者の身元特定を迅速に行うことが可能であることから、生前情報の収集が重要
5	大規模災害時の対応	東日本大震災津波の教訓を踏まえた連携体制の維持と災害等の状況の変化に応じた定期的な見直しが必要